

第39回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホタル研究会の第39回大会が平成18年6月16日～18日の3日間、山口県下関市豊田町（旧豊田町）にて、全国ホタル研究会主催、第39回全国ホタル研究大会下関実行委員会主管、下関市、下関市教育委員会共催、環境省、山口県、山口県教育委員会、山口ホタルの会、とよたホタル研究委員会、豊田ホタルの里ミュージアム、豊田観光協会、下関市商工会豊田町支所、更に各新聞社や地元企業の後援をいただき、「ホタルに学び、ホタルとともに育つ」を大会テーマに盛大に開催され、全国各地、さらに台湾から250名の参加をいただきました。

16日午前中に東海地方に集中豪雨が降り、東海道新幹線が約1時間運転を見合わせるというハプニングがあり、受付時間に間に合わないのではないかと懸念されましたが、なんとか無事予定通り始めることができました。12時30分から午後1時30分まで研究大会会場でもある下関市豊田生涯学習センターで受付が行われ、午後1時30分からオリエンテーションが開催されました。午後2時からは、3つのグループに分かれ豊田ホタルの里ミュージアム、ホタル舟の船乗り場、ホタル発生地である神上寺を見学しました。ホタルミュージアムでは館の活動の紹介の後には自由見学となり、常設展示の他、豊田町に生息する陸棲貝類の特別展などを見て回りました。午後4時30分頃に宿泊ホテルに

戻ると午後5時から宿泊施設のひとつである一の保温泉グランドホテルで「ゲンジボタル」「ヘイケボタル」「ヒメボタル」の3つに分かれて分科会が行われました。分科会終了後夕食をとり、午後7時40分から3グループに分かれて順次ホタル観賞に出発にしました。

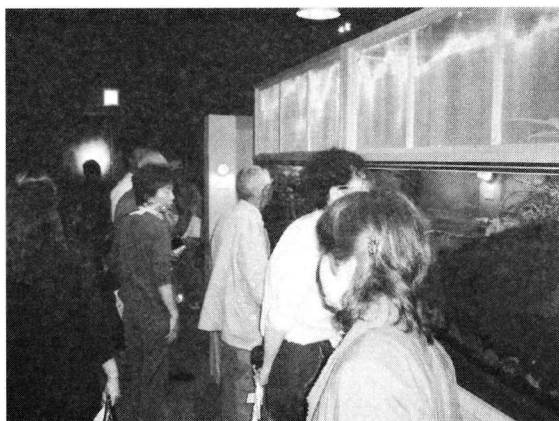
木屋川のホタル舟は船乗り場から下流へ、川の流れていくとホタル観賞ができます。川の中から見るホタルの舞いは、また違った趣があります。ホタル舟が川下りをする区間の所々に新しい護岸があるのですが、そうした護岸にはほとんど、あるいはまったくホタルがおらず、いかにホタルの生息に護岸の影響があるのかを思い知らされました。

神上寺では境内の奥から流れてくる川にゲンジボタルが舞っていましたが、駐車場脇の山林ではヒメボタルが少数光っており、昨年の西尾市平原ゲンジボタルの里に続いてゲンジボタルばかりでなくヒメボタルを観賞することができました。

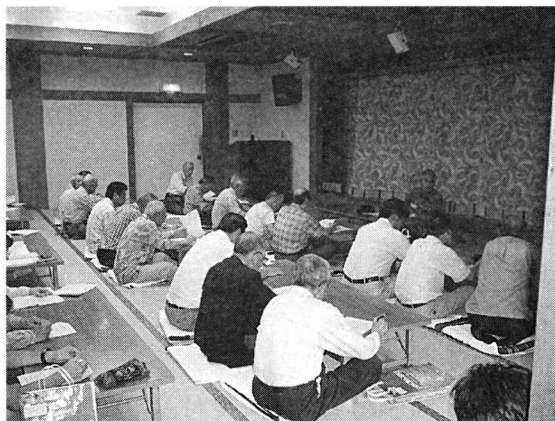
観賞後、バスが一の俣グランドホテルに入らずにそのまま通り過ぎ少し行くと、運転手さんに「ここでもホテルが見られる」と教えていただき、バスを降りてホテルを観賞しました。川幅はあまり広くなかったのですが、まあまあ数のホテルがいて、さすがにホテルの里だと感心しました。

明けて17日、9時より地元FM局の大村恵子さんの司会で開会式が始まりました。開会宣言を中村副会長が行い、続いて古田会長の挨拶の後、大会副会長でもある本廣正則下関市副市长による歓迎の挨拶、小山 和と下関市議会副議長の来賓挨拶と続き、最後に来賓としてご列席いただいた方々の紹介が行われ開会行事を終了しました。

開会式の後、休憩をはさんで研究発表に移りました。午前中は最初に山口ホテルの会の児玉 行氏による「山口市「一の坂川」のゲンジボタルの復元」と題した講演が行われ、続いて下関市立西市小学校の5年生17名の児童さんの旧豊田町とホテルの関わりを調べたの発表など地元から4件の発表が行われました。地元発表後、昼食休憩に入る前には台湾から参加された林鋼修氏、何建容氏からの挨拶がありました。午後からは会員による8件の研究の発表があり、続いて前日の分科会の報告が各分科会の座長より行



ホテルミュージアムの見学



分科会「ゲンジボタル」



会場（下関市豊田生涯学習センター）入り口



豊田のホテルの展示コーナー

われました。最後に休憩時間を挟んで、39回総会が開催されました（総会報告参照）。

会場となった下関市豊田生涯学習センターのロビーでは豊田町のホタルを標本やパネルで紹介した展示や、ホタルの柄の茶碗などの工芸品や絵はがきなどの展示などがあり、会員の皆さんが熱心に見て回っていました。また、通路を仕切った区画では熱心に豊田町に大会を誘致されながら、大会を迎えることなく亡くなった藤井勝利氏のホタルの写真も展示されていました。

研究大会終了後は、一の保温泉グランドホテル会場を移し、司会を再び大村恵子さんにお願ひし、懇親会が開催されました。古田会長の開会挨拶、本廣正則下関市副市長からの開催地代表挨拶の後、本廣正則副市長から次期開催地鳥取市の竹内 功市長に大会幕の受け渡しがあり、続いて竹内市長の次期開催地代表挨拶が行われました。一柳武知大会副会長による乾杯の後、豊田地区婦人会の皆さんを中心としたアトラクションや映画「ほたるの星」の菅原浩志監督とモデルとなった瀧口 稔氏の紹介などもあり、最後に大会実行副委員長の小田尚久氏の閉会挨拶で楽しい宴も終わりとなりました。

18日は下関市豊田生涯学習センターで映画「ほたるの星」の上映会が行われました。上映終了後、菅原浩志監督と映画のモデルになった下関市清末小学校教諭の瀧口 稔氏によるトークショーが行われ、映画を撮ることになったきっかけや撮影中のエピソードなどが語られました。これで大会日程が全て終了しました。

会 場：山口県下関市豊田町 下関市豊田生涯学習センター

大会日程：

6月16日（金）

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 12：30～13：30 | 受付（下関市豊田生涯学習センター） |
| 13：30～13：50 | オリエンテーション |
| 14：00～16：30 | 見学会（豊田ホタルの里ミュージアム，木屋川，神上寺） |
| 17：00～18：30 | 分科会 |
| 19：40～22：10 | ホタル鑑賞（木屋川ホタル舟，神上寺） |

6月17日（土）

- | | |
|-------------|--------|
| 9：00～ 9：30 | 開会式 |
| 9：40～10：10 | 特別講演 |
| 10：15～16：10 | 研究発表 |
| 16：10～16：40 | 分科会報告 |
| 17：00～18：00 | 第38回総会 |

- 19:00~21:00 懇親会 (一の俣温泉グランドホテル)
- 6月18日(日)
- 9:30~9:45 菅原浩志監督, 瀧口稔氏紹介
- 9:50~11:30 映画「ほたるの星」上映
- 11:30~11:50 トークショー

研究発表:

- ①豊田とホタルと人 下関市立西市小学校
- ②ホタルの町のホタルの博物館 川野 敬介
- ③道路改良工事に伴うゲンジボタルの経年的な生息状況モニタリング調査
..... 藤井 宏之
- ④遺伝子解析による豊田地域に生息するゲンジボタルの集団構造について
..... 増本 育子
- ⑤守山ほたるパーク・アンド・ライド事業 -市民の力が守山を変えた-
..... 中島 耕
- ⑥ゲンジボタルの発光周期について 翠川 博之
- ⑦長野県辰野町におけるゲンジボタルの明滅周期について 井口 豊
- ⑧遺伝子から見た長野県内のヘイケボタル個体群の地理的分布 三石 暉弥
- ⑨ヘイケボタル成虫にヤナギ、ドクダミ投与の影響 山岡 誠
- ⑩パプア・ニューギニアのホタル *Pteroptyx effulgens* の光シグナルを
 ちゃっかり利用するホタルの1種 大場 信義
- ⑪クロクシヒゲボタル *Cyphonocerus watarii* の生息環境および
 近縁種との形態的差異 川野 敬介
- ⑫遺伝子から見たヒメボタルの体型と地理的分布 草桶 秀夫
- (共同発表の場合は発表者のみ)

大会開催地より

第39回全国ホタル研究大会（下関大会）お礼

第39回全国ホタル研究大会下関大会実行委員長 小田 尚久*

歴史と伝統ある、第39回全国ホタル研究大会も、ご来賓の皆様方をはじめ、全国各県より、更には台湾より、総計250人の皆様方をお迎えし、このように盛会裏の内に閉じることができますこと、実行委員長としまして心より、喜んでいきます。これも、ひとえに皆様方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

昨年までは、夜のホタル観賞から大会が始まりましたが、本年より、会員の皆様のご要望により、ホタル生息地の昼と夜の状況の見学と、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの3分科会を入れましたので、参加された方々にとりまして、少し過密なスケジュールになりお疲れになったのではと反省しているところです。これも、ホタルの里豊田をしっかりと、あますところなく全国の皆様方へアピールしたい願いの結集であると、ご容赦願います。しかし、終了後会員の皆様方の声やお礼のお手紙を頂戴しました中で、「分科会や研究発表がとても、今後のホタルの保護に役立ちます。感謝。」、「ホタル船の頭上に飛び交う螢の、幻想的な饗宴に酔いしれました。」、「最終日の映画、ほたるの星に感動しました。子供達に見せてやりたい。」等々沢山の言葉を頂き関係者一同喜んでいきます。ありがとうございました。

これを機縁に、ますます、ホタルを通して自然環境の保全や調査・研究が全国各地に推進されるものと確信しています。

終わりに、2005年7月に実行委員会を立ち上げて以来、終始ご指導ご支援下さいました、全国ホテル研究会の古田会長さんをはじめ、事務局の佐久間さん、倉田さん、更には、下関市・下関市教育委員会の皆様方に深甚なる敬意と謝意を表しますと共に、全国ホテル研究大会の益々の発展と会員の皆様方のご健勝を祈念しお礼の言葉とします。

全国ホテル研究大会を終えて

川野 敬介*

全国ホテル研究会が未だ全国ホテル研究同好会と呼ばれていた昭和44年、下関市豊田町（以下、豊田）で第2回大会が行われました。第2回大会では、羽根田弥太博士による講演や地元発表などその当時として非常に濃い内容の発表及び会場展示がなされていました。そして、月日は経ち第39回を再び豊田で行うことになったわけです。

大会を行うにあたり、私はまず豊田とホテルの歴史を徹底的に調べあげることになりました。そして、その中で、豊田の町と人が、ホテルを護り、ホテルを敬愛する姿を見つけることができ、更にはホテル資料館やホテル祭り、ホテルバス、屋外ホテル飼育施設といった近年では比較的ふつうに行われてこれらのことを、豊田の人々が苦心して昭和40年代から実施していることに驚きを覚えました。豊田という町が、今でこそ、ホテルの町といわれるのは、先人の方々の努力に他ならないことはゆうまでもないのですが、本大会の準備に際し、そのことを再認識いたしました。また、私は、鹿児島町の町中で育ち、ホテルとは縁のない幼少期を過ごしましたが、ここ豊田の子供たちの生活の中には常にホテルがいる。そんな生活が、普通にあるここ豊田の素晴らしさ。私は、豊田の歴史や現状を調べれば調べるほど、どのようにしてこの豊田を参加者の皆様にお伝えすればいいのか、また、第2回大会と同じかそれ以上の大会にするにはどうすればいいのか、頭をかかえておりました。

しかし、ある時気づいたのです。“この豊田をそのまま見せればいいのか”ということ。そして、会場展示や地元発表、生息地見学などは、背伸びすることなく、豊田のそのままをお見せすることにしました。ですから、大会のために何か大規模な物を造るといったことや環境を整備するといったことはなかったもので、少し地味な大会になったかもしれません。しかし、皆様には“今の豊田の姿”をお見せすることができました。大会の前も後も変わることなく、豊田はこのままです。おそらく、来年お越しいただいても、豊田はこのままです。是非、またここ豊田に立ちよりください。ホテルの町の、ほたるの火が、今年と同じ彩と温もりで皆様をお出迎え致します。

* 豊田ホテルの里ミュージアム

ホタルと手をつないでいこう

下関市立西市小学校5年 藤本 雅子

全国ホタル研究大会では、何百人もの人の前で発表するなど初めてのことで、ものすごく緊張しました。けれど、自分の考えをはっきりと言えたので、よかったです。

この発表へ向けて、みんなと協力して疑問を解決したり、町の人たちに聞いたりして学習を進めてきました。それらを通して、人々の思いや自然や環境を大切に作る工夫など、いろいろなことを学ぶことができました。たとえば、「出かけると意識して町を見渡すようにしている」など、町の人々のホタルや環境に対する思いは、私の想像よりもはるかに上回っていて、とてもびっくりしました。

私はこれまで、ホタルや環境のことはあまり意識せずに生活してきたので、すごく反省しました。この学習を通して「環境を大切に作る」ということに少し敏感になったような気がします。これからは、「ホタルと自然いっぱい町賞」のような賞がもらえるぐらいに、わたし自身もできること、役立つことに積極的に取り組んでいきたいです。そして、これから100年たっても「豊田のシンボルはホタルだ」と自慢できるように、今味わえる自然の豊かさや美しさがずっと続くように、自分から工夫したりみんなに声をかけたりしていきたいです。将来、ホタルと自然と人が手をつないでいるようなポスターが貼り出されるような豊田町にしていきたいと思います。

ホタル研究大会を通して

下関市立西市小学校5年 小嶋 愛美

全国ホタル研究大会を通じて、多くのことを知りました。ホタルを守りためのきまり「ホタル保護条例」があること、豊田の町の人たちがホタルをとっても大切にしていること、ホタル舟などホタルのためにたくさんの方が努力してきたことなどです。

町の人たちにインタビューすると、みんな豊田の自慢はホタルだと答えてくれました。でも、学習を進めていくうちに、昔は今とは比べものにならないぐらいホタルがたくさんいたということを知りました。今はホタルを増やす努力をしているので、ホタルが増えていたと思っていたのですが、昔に比べるとずいぶん減っているそうです。

私の住んでいる地区には、今もたくさんのホタルがいます。これからは、ホタルを守り、増やしていくために、自分ができることは自分でどんどんしていきたいです。豊田町のみならず、ホタルのすばらしさや大切さを知ってほしいし、豊田町だけでなく、他の県や市町村の人たちにも、ホタルを見に来て豊田町がどんなにすばらしいかを知ってほしいと思います。

ホタル研究大会で学んだこと

下関市立西市小学校5年 柿野真里奈

わたしたちは「ふるさと豊田とホタルと人々」という学習をして、いろいろなことを学びました。

一つめは、豊田の町の人たちがホタルを大切にしているということです。わたしは、毎年ホタルが出る時期にも「ああ、ホタルか」と思うぐらいでしたが、町の人たちは、「家庭排水に気を付ける」「ごみを捨てない」など、たくさんの方に気を付けていました。わたしにできることもあったので、これからはしたいと思いました。

二つめは、豊田町の環境についてです。ほたるが減った原因は、川の水がきたなくなったからだそうです。川にごみを捨てたり、きたない水が流れ込んだりするのだと思います。豊田の人たち1人1人が、ちょっとしたことに気を付ければ、ホタルはまた増えていくと思います。

私は町の人たちにインタビューをしましたが、豊田の自慢や有名なものをたずねると、ホタルだけでなく、なしや華山などいろいろな答えがありました。このように自然のすばらしさいっぱい豊田町で、ホタルがもっとたくさん増えていくように、自分から清掃活動などに参加していきたいと思います。